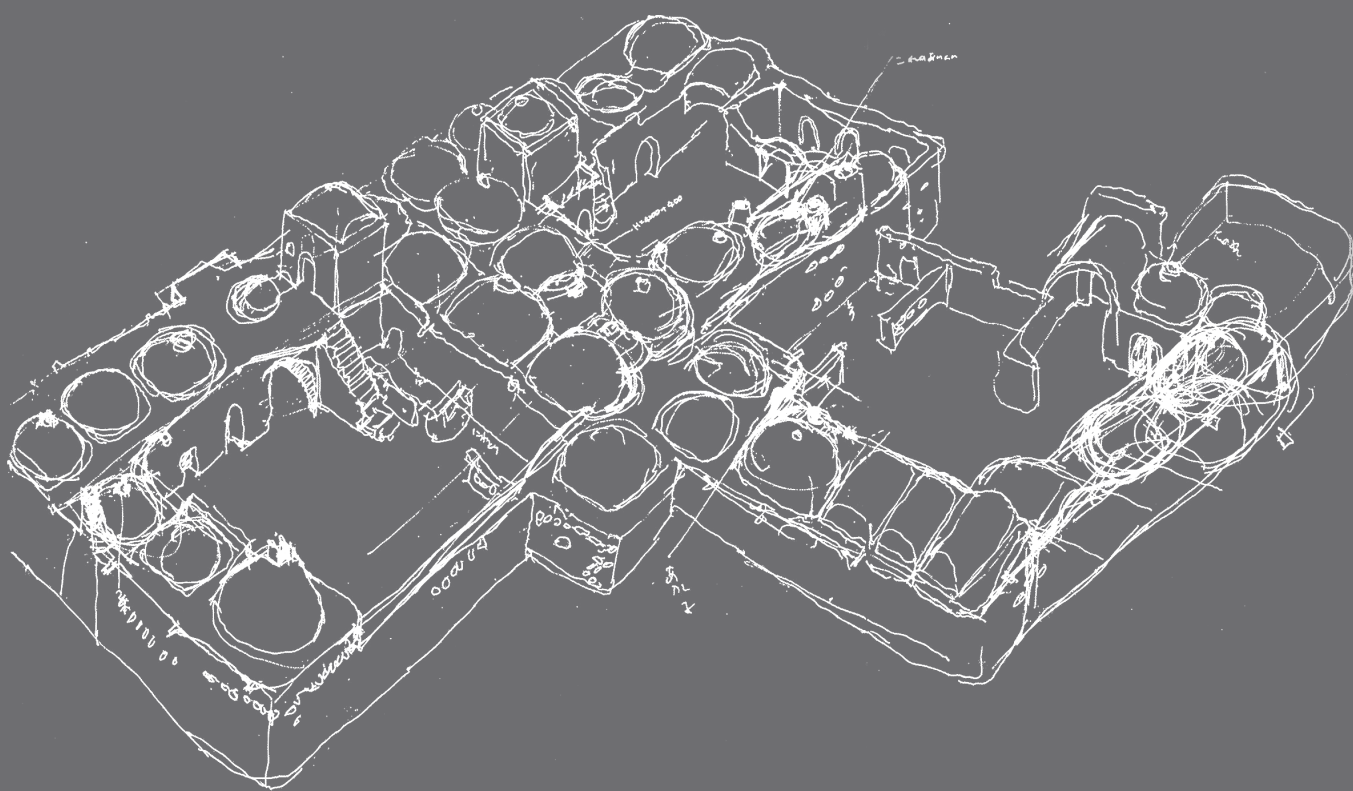


幻の建築家たちの教え

ーフィールドワークと実践をつなぐものー

日本建築学会シンポジウム



Mayabad

Mayabad

Hiroshi Hara

時の試練を経た集落は格好の教科書、その構想者は会うことが叶わない幻の建築家一居住を取り巻く状況が急速に変化している現代においても、いや、むしろ現代においてこそ、フィールドに出向くと多くの学びがあります。しかしフィールドワークは名人芸に近く、定まった方法論はありません。そこで比較居住文化小委員会では、名人たちが何を考え実践してきたのかを広く伝えるべく、16名の濃密なインタビューと直筆のフィールドノートをまとめ、書籍「建築フィールドワークの系譜：先駆的研究室の方法論を探る」(出版社：昭和堂／出版年月：2018年12月)を出版しました。

本シンポジウムでは、本書で取り上げた中から4名をお呼びします。第一部は、世界的建築家かつ先駆的フィールドワーカーである原広司氏と古谷誠章氏の講演です。フィールドに何を求めて旅立ち、どのような調査を行ない、その成果が設計の実践にどうつながったかについて解説します。第二部ではこれを受け、布野修司氏が建築計画学の視点から、陣内秀信氏が建築史学の視点から、フィールド研究のトップランナーとしてコメントします。その後は、比較居住文化小委員会のメンバーも加えたパネルディスカッションです。以上の講演と議論を通じて、フィールドワークの現代的な意義をあぶり出します。

2019年3月6日[水] 17:00-20:30

会場 建築会館

〒108-8414 東京都港区芝5-26-20
建築会館ホール

主催：建築計画委員会 住宅計画運営委員会 比較居住文化小委員会

17:00～17:10 主旨説明：前田昌弘（小委員会主査：京都大学）

<第一部：設計の視点から>

17:10～17:50 講演：原広司（建築家、東京大学名誉教授）

17:50～18:30 講演：古谷誠章（建築家、早稲田大学教授、日本建築学会会長）

18:30～18:40 休憩

<第二部：研究の視点を加えて>

18:40～19:00 コメント：布野修司（滋賀県立大学名誉教授・建築計画学）

19:00～19:20 コメント：陣内秀信（法政大学名誉教授・建築史学）

19:20～20:20 パネルディスカッション：前掲4名+清水郁郎（芝浦工大）+本間健太郎（東京大学）+稲垣淳哉（早稲田大学）

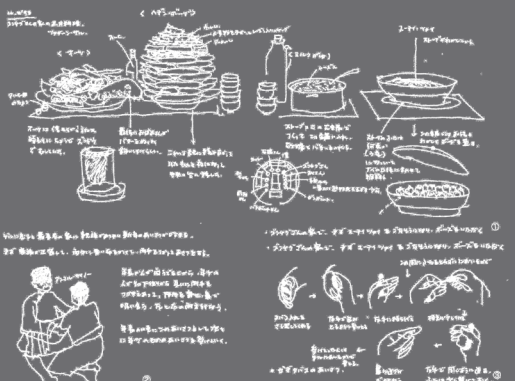
20:20～20:30 まとめ

参加費 会員1,000円、会員外1,500円、学生500円（資料代含む／当日会場払い）
定員 200名（申し込み先着順）
申し込み方法 Web申し込み（3/1締切） <http://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=615792>
問い合わせ 日本建築学会事務局 事業グループ 榎本

TEL：03-3456-2051 E-mail：enomoto@aij.or.jp



Hiroshi Hara



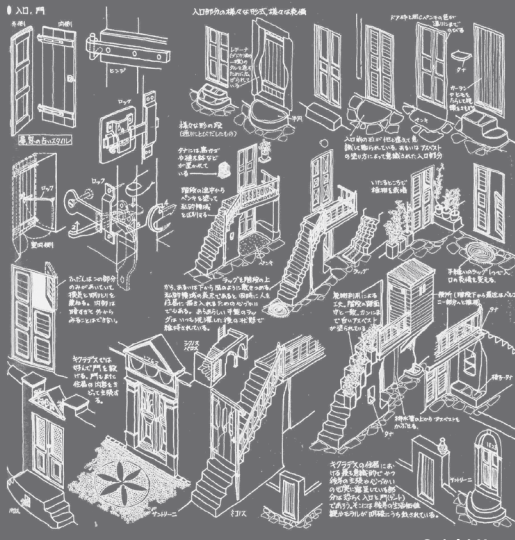
Nobuaki Furuya



Hiddenobu Jinnai



Shuji Funo



Soichi Hata